

【小学校・文化や芸術に関わる体験活動】

平得地区の獅子舞・棒術の体験演舞
沖縄県石垣市立平真小学校

学校の概要

学校規模

学級数：15学級

児童数：452人

教職員数：29人

体験活動の観点からみた学校環境

石垣市は、人口4万5千人の観光と農業及び漁業を中心とした市である。八重山地域の政治、経済交通の中心地である。最近、都市化が進み広い駐車場を備えたショッピングタウン化が進んでいる。

校区は古くからの集落と新しい団地や住宅地からなり、国の研究機関等の公務員住宅もあり、児童の出入りが多い。

豊年祭や種子取り祭等古くから伝わる伝統的な行事が数多く残り、現在でもしっかりと受け継がれているが、後継者育成の面では多くの課題もある。

地域の人々の学校教育に対する関心が非常に高く、以下報告する獅子舞・棒術の体験学習も学校からの依頼により、同好会や青年会等の協力により過去27年間継続され、第6学年の全児童が参加しているの伝統的な活動となっている。

校内においてはガジュマルが茂り、草花が絶えず咲き、緑豊かな学校である。

連絡先

〒907-0003

沖縄県石垣市字平得174番地

電話：09808-2-3263

FAX：09808-2-0759

電子メール：

heisin99@mocha.ocn.ne.jp

体験活動の概要

活動のねらい

地域の伝統文化にふれることによって、郷土愛や伝統文化を大切にする心情を育てる。

獅子舞・棒術の体験演舞を通して、最高学年としての自覚と責任感を育てる。

演舞練習を通して、地域の人々の伝統文化への誇りと継承活動への熱意を知る。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

第6学年全児童参加の教育課程内活動
総合的な学習の時間に位置付け、調べ学習から体験実演へと繋げる。

学校行事として5時間、総合的な学習の時間として40時間、その他、発表会前の2週間の18:30~20:00まで指導を受ける。

学習の成果を父母・PTA・地域の方々に公開する。

体制等の工夫

可能な限り教育課程内で取り組む

第6学年担任を中心に、学校、父母、地域が連携した取り組みとして実施

活動の成果等

第6学年が取り組む本校の伝統のある活動として27年間継承してきた。

県外における郷友会活動等で卒業生が故郷の伝統芸能等を発表する機会があり郷土の伝統文化の伝承に寄与している。

青年会活動でも演じられ、現在は青年会のメンバーが直接指導に当たっている。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 地域の伝統・文化にふれることにより、郷土愛や伝統文化を大切にすることを育てる。
- イ 地域に残る獅子舞・棒術の調べ学習や実演を通して、伝統文化の奥深さやそれを支える地域の人々の思いを知る。
- ウ 獅子舞・棒術の練習を通して、互いに教え合い、励まし合いながら、活動することの大切さを知る。
- エ お世話になる人たちに対する思いを自分なりに伝えて、人と人とのつながりやふれあいを大切にできるようにする。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「平真小学校にはどうして獅子舞・棒術があるの」

イ 実施学年

第6学年

ウ 活動内容

- ・ 八重山地域における獅子舞・棒術の分布及び奉納される伝統行事との関連調査
- ・ 舞踊「鷺の鳥」についての調査学習、実演のための演技練習、指導に当たる人たちとの交流
- ・ 獅子舞・棒術の実演のための演技練習と指導に当たる人たちとの交流
- ・ 練習の成果を保護者や地域の方々に鑑賞していただく発表会の実施

エ 教育課程上の位置付け

- ・ 教育課程内の活動として位置付け、学校行事や総合的な学習の時間で実施する。
- ・ 発表は学習・研究発表会として位置付け、地域住民及び保護者に鑑賞してもらう。

オ 実施時期（日数や時間数）

- ・ 実施時期は11月から始め、2月2日の学習・研究発表会で調査及び練習の成果を発表する。最後はシックイシーサーの制作で終了した。
- ・ 実施時間数は、学校行事で5時間、総合的な学習の時間で40時間、図画工作の時間で4時間、このほか獅子舞・棒術の指導のために1月18日～2月1日の毎日、18：30～20：00の時間に地域の方の協力を得て実施した。

カ 活動場所

本校の体育館及び運動場・各教室

キ 継続の状況

- ・ 本校における獅子舞・棒術の演舞活動は「平得地区獅子舞・棒術同好会」の協力を得て、今日まで27年間継続されてきた。
- ・ 現在では獅子舞・棒術は本校の卒業生からなる「平得青年会」に受け継がれ、平成13年度からは、青年会が中心となって指導できる体制になった。
- ・ 今後は校区の1つである「真栄里地区の獅子舞・棒術」も活動内容に加え、継続実施していくように調整をしている。
- ・ 「総合的な学習の時間」の創設により、「獅子舞・棒術の体験演舞」が、より子どもたちの主体的な学習や活動の場として実施できる見通しができるようになった。

2 活動の実際

(1) 単元の指導計画 総指導時数 44時間

過程	時数	学 習 活 動	学 習 者 の 意 識 の 流 れ	備 考
イ メ ー ジ	(2) 1	<獅子舞・棒術>について 学習しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな学習をするのかな ・早くやってみたいな ・僕も演じたいなあ 	学年全体 (図書館) VTR視聴
	1	<課題追求>の意欲を持たせる	<ul style="list-style-type: none"> ・獅子舞・棒術のどんな調査をしようかなあ 	
出 会 い	(3) 1	<課題探し：自分が調べたいことを見つけよう> ・家族や知人や地域の人 ・博物館や図書館・公民館 ・インターネット	<ul style="list-style-type: none"> ・どれが自分にとって一番良い課題かを見つける ・面白いネタ(情報)はないか ・いろいろな方からお話を聞いてみよう 	各クラス ・情報の取り方の指導 ・質問の仕方や方法についての指導
	2	<自分の課題>を発表しよう <課題に沿ったグループづくりをしよう> <グループ課題を見つめよう>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べることの可能な課題を自分なりにしっかり持つ ・グループづくりに協力しよう 	各クラス ・メンバー構成は特に配慮すること ・学級内での調整が無理な場合は学年で
チャ レ ン ジ	(3) 1	<学習方法を検討しよう> ・調査の方法, 対象や場所について ・アポイントメントの仕方等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の方法や仕方をきちんと理解し, 実行可能な手立てを考えよう 	学年全体 (図書館) 同一課題グループ
	2	<課題追究をしよう> 追究 ・身近な祖父母 ・地域の人や公民館 ・博物館や図書館 ・インターネット	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでできる可能な方法を使って調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで調査する ・個人で調査する
発 信 し よ う	(5) 2	<まとめる> ・調べた内容を分かりやすく ・調査した内容は整理すること	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを分かりやすい方法でまとめよう 	各グループで
	1	<発表の仕方を考えよう> ・どんな方法で ・何を発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方を考えよう 	各グループで
	2	<クラスの人に聞いてもらう>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を参考にしよう ・もっと良い方法はないのか ・残された課題はどうすればよいか 	学年で
チャ レ ン ジ	(3) 1	<学習の課題や方法を再検討しよう> ・学習課題について ・調査の方法, 対象や場所について ・他のグループの参考事例 ・アポイントメントの仕方等	<ul style="list-style-type: none"> ・再度, 学習の課題や方法, 仕方をきちんと理解し, 実行可能な手立てを考えよう 	学年全体 (図書館) 同一課題グループ
	2	<課題の再追究> 追究 ・身近な祖父母 ・地域の人や公民館 ・博物館や図書館 ・インターネット	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでできる可能な方法を使って調べよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで調査する ・個人で調査する

過程	時数	学 習 活 動	学 習 者 の 意 識 の 流 れ	備 考
発 信 し よ う	(5) 2	<まとめる> ・調べた内容を分かりやすく ・調査したことのそのままではないこと	・調べたことを分かりやすい方法でまとめよう	各グループ
	1	<発表の仕方を考えよう> ・どんな方法で ・何を発表する	・発表の仕方を考えよう	各グループ
	2	<全員に聞いてもらう>	・友だちの発表を参考にしよう ・もっと良い方法はないのか ・残された課題はどうすればよいか	学年
演 じ て み よ う	2	<獅子舞・棒術>を演じてみよう ・課題追究の意欲を持たせる。	・どんな役をしたいか ・自分はどんな協力ができるのか ・平得の獅子舞・棒術をもう一度観察しよう	学年全体 (図書館) V T R 視聴
役 割 分 担 を し よ う	2	<自分の役割を決めよう> ・獅子の役は誰が演じる？ ・獅子使いは誰が演じる？ ・どの棒を誰が演じる？ ・囃子は誰が演奏するのか？ ・指導はどのようにお願いするか？ ・練習の場所・時間は？ ・進行プログラム作成は誰が行う？ ・進行役は誰が行う？ ・衣装づくりは誰が行う？ ・説明用の資料の作成は誰が行う？	・自分がやりたいのは何か ・自分にできることは何か	学年全体
分 担 し て 活 動 し よ う	10	<自分の役割に従って活動しよう> ・獅子役 ・獅子使い役 ・各棒の演じ役 ・囃子役等	・自分の責任をしっかりと果たそう ・自分が協力できることはきちんとしよう	学年全体 教育課程内 ・体育館 ・運動場 教育課程外 1/18 ~ 2/1 の期間 18:30 ~ 20:00 の時間帯に地域の方に指導を受ける。
発 表 会	4	<獅子舞・棒術>を演じる ・課題追究の意欲を持たせる	・自分の責任をしっかりと果たそう ・地域の獅子舞・棒術に誇りを持とう	学習・研究 発表会
ま と め	1	<学習のまとめをしよう>	・自分が調べたことを記録集にまとめよう	学年全体
	4	<シックイシーサーの制作> 卒業記念のシーサー	・卒業記念に残る自分だけのシーサーを作ろう	図工科の位置付

(2) 活動の場や施設

舞踊曲の「鷺の鳥」,「獅子舞・棒術に関する調査活動と調査結果」の発表会は教育課程内に位置付けて実施した。

「獅子舞・棒術」を演じてみようの練習の一部は,1月18日~2月1日は地域の方に指導を依頼しての教育課程外の活動となった。練習場所は,主に体育館と運動場を使用した。

(3) 指導者・協力者

調査活動は学級担任が中心となって,地域に住む古老の協力を得て実施した。舞踊「鷺の鳥」の練習については,郷土芸能に秀でた職員の協力を得て教育課程内の時間で行った。

「獅子舞・棒術」の練習は,平得地区「獅子舞・棒術同好会」の皆さんと平得青年会の皆さん総勢20余名の協力を得て実施した。

(4) 児童の活動状況

6年生になったら,「獅子舞・棒術」を演ずることができる。これが27年間も続いている獅子舞・棒術に対する子どもたちの見方である。当校区には国家公務員住宅があり,県外出身の児童も平真小学校で最大の思い出になる活動と認識している。



体育館での地域の指導者による指導



運動場での個別練習

(5) 指導や支援の実際

舞踊「鷺の鳥」の演舞指導は,総合的な学習の時間に学年担任と郷土芸能に秀でた職員で指導に当たった。

「獅子舞・棒術」の演舞指導は,主に指導者の皆さんにお願いし,1月18日~2月1日の間の18:30~20:00の時間帯での指導となった。獅子役,獅子使い,組棒ごとにそれぞれ指導者を割り振って指導を行った後,総合的な学習の時間に担任教師の指導の下に各グループごとの練習をした。鳴り物の練習は夜間に地域の方に指導していただいた後,音楽専科の教師が指導に当たった。

(6) 教材や教具等

獅子舞・棒術等に使用する衣装や獅子頭,長刀等の棒,ホラ貝,ドラ,鉦筒等の小道具については,地域の方や元職員等から寄贈してもらい,すべて学校で保持している。

3 体験活動のための体制

(1) 学校の体制,家庭や地域,関係団体・施設・機関等の連携

担当の第6学年担任が活動の中心となって取り組んでいる。地域の方や関係団体への交渉や依頼は,校長・教頭が行っている。これまでは,「平得地区獅子舞・棒術同好会」の方々を中心と

なり指導に当たってきたが、今年度からは、本校の卒業生を主たるメンバーとする「平得青年会」も加わっての指導体制となった。舞踊の地謡は、第6学年の保護者に協力をお願いした。

(2) 活動の場や指導者の確保等について

指導者の確保については、「平得地区獅子舞・棒術同好会」、「平得青年会」、保護者等地域の方々の積極的な協力がある。練習場所や練習時間について、「総合的な学習の時間」の創設により、その趣旨を踏まえながら確保できる見通しができた。

4 成果と課題

(1) 成果

児童が地域の指導者とふれあうことで、地域の伝統芸能の良さに気付くことができた。

(2) 課題

指導者の仕事上、夜間に指導が集中するため、今後は指導者との連携を図り教育課程内での実施を図りたい。

舞踊「鷺の鳥」や「獅子舞・棒術」に関する調査活動やまとめ方の工夫・改善が望まれる。

5 今後の取組

これまで続いてきた舞踊「鷺の鳥」や「獅子舞・棒術」を今後とも学校教育の中で位置付け、開かれた学校、特色ある学校づくりの核として継続していきたい。

6学年の「総合的な学習の時間」における単元として、地域の先輩の協力・支援を得ながら、活動内容の多様化、学習過程の深化・充実を図りたい。

指導を教職員でもできるような指導体制を、保護者や地域の関係者の協力を得て構築していきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

この体験活動のねらいは、地域に残る獅子舞・棒術の調べ学習や実演を通して、郷土愛や伝統文化を大切にする気持ち、地域の伝統文化の継承活動に対する気持ちを育てるとともに、高学年としての自覚と責任感を育むことである。

この活動は、地域の「平得地区獅子舞・棒術同好会」の協力を得てこれまで27年間、6年生が取り組んできた平真小学校の伝統的な活動である。平成13年度からは、同小学校の卒業生を主たるメンバーとする「平得青年会」から中心的に指導を受けることになった。体験活動の内容は、獅子舞・棒術等に関する調べ学習、実演のための実技演習と指導していただく地域の人々との交流、成果の研究発表会から成っており、同校の子どもたちが「6年生になったら獅子舞・棒術を演じることができる」と感じていることから、この体験活動が同校に深く根付いていることが分かる。

なお、地域に根ざした文化体験活動を実施する際には、学校が積極的に地域、関係団体、諸機関と連携を図ることにより、充実した体験活動をすすめていける体制を整備することが求められる。